

看護部長通信 12月号

師走を迎えています、皆さまいかがお過ごしでしょうか。

さて、今年で平成30年という区切りを迎え、新しい年号へと移り変わる大事な締めくくりの12月になりました。

私にとっては、この30年の時の流れの中で多くの思い出作りができました。看護師を夢見ていた幼少期の昭和の時代が懐かしく思い出されます。何ととっても苦しかったのは、働きながらの看護学生時代の20代の若かりし日の頃で、今でもよく思い出します。特に国家試験の大変さは昔も今も変わりなく、勉強嫌いの私にとっては勉強しなければいけないことを思い知る時期でもありました。看護師資格取得後は、労働条件がすこぶる悪い中での連続夜勤で、睡眠時間が確保されないまま次の勤務に入るといった過酷な時代でした。その後、結婚と出産を経験しましたが、仕事を辞めたいと思ったことはなく、家族の協力のもと看護師を続けることができました。子育てと仕事の両立はめちゃくちゃ大変でしたが、とにかく仕事が楽しかったしやりがいがあり、患者さんを前にして自分の出来ることを精一杯して看護の仕事がしたいと思っていました。いつも仕事のことで頭がいっぱいで頑張ることしかできなかったあの頃。子供たちの成長が親の成長につながると思い、がむしゃらに働いていたように思います。そんな中、娘が幼稚園の時に看護師になりたいと言ってくれたことが嬉しくて、そのことが仕事をする事への励みにもなりました。今は娘が看護師になり、息子も看護師を目指しています。今振り返ると子供たちに愛情を十分に注いできたかと問われると不確かな言葉しかないのですが、私と同じ夢を辿ってもらい、ありがたいと感謝しています。

昨年は、私の人生の中で大きな転機を迎えたように思っています。大好きな仕事を辞めて看護から離れて専業主婦をしたことが大きな節目となり、今年は新たな目標に向かって飛躍出来る年になったかなあと思っています。

また、今年、この光市という町で働く機会ができ、第2の故郷に戻ってきたという思いをしています。当院に就職したことでやっと自分の居心地のよい場所にたどり着いたような気がしています。私と同様、8月に京都からこの光市へ移住して来られた薬局長さんは、誰からも頼りにされる親しみやすい方で、私はこの病院で働くことで色々な人に出会う機会をもらっています。まだまだ沢山の人に出会い、いい仕事がしたいと思っています。焦りばかりが先行してしまい、私の理想とする働きたい職場への実現には至っておらず、来年からは本格的に始めなければと考えています。

今年は、病院の大忘年会が開催されます。3年ぶりに行われるということもあり、職員の皆さんはとても楽しみにしています。私が当院に就職してまだ一度も話をしていない方が若干おられるように思いますので、ぜひこの機会に親交を深めることができると思っています。

平成は私にとってどんな時代であったかと問われたら、人生における基盤を確立した素晴らしいことの連続であったと応えるでしょう。これからは、生涯現役を続けていきたいですね。

この地域にふさわしい病院で、職員一人ひとりがこの病院で働いて良かったと言えるような誇らしい病院づくりに惜しみなく力を注ぎたいと思っています。

平成の終わりまであと少しになります。本当にこの病院へ就職して良かったと思っています。皆様に感謝申し上げます。皆様、よいお年をお迎えください。

平成30年12月7日

看護部長 伊藤節美